

進め！旭

第19代校長 河原 克宣



旭高等学校が創立50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。旭高校で定年退職を迎えることができましたこと、大変光栄に思っています。

古谷前校長から引き継ぎ着任時に感じたのは、生徒の活気ある熱量とこれを支援する教職員の表情の穏やかさ、更に地域から愛され期待されていることでした。一方で生徒も教職員も自らの発想と集団の力で現状を変化させることへの躊躇があるのではないかと感じました。自主自律を校訓とする本校の歴史と伝統を継承、進化させて次代に引き継ぐ「持続可能な旭高校」とすることが自分の使命だと自覚しました。

在任中には外周擁壁の改修が始まり、武道場と体育館の改修も決まりました。ソフト面では学習指導要領改訂に併せて、学校の基本理念を示すランドデザインを変更することとなり、若手の教員が中心となって、20年先を見据えて旭高校が進むべき方向を見事に示してくれました。

これをベースに新たなスタートを切ろうとした令和2年の冬、新型コロナウイルス感染症が世界を一変させ、旭高校もこの大きな波に飲み込まれました。登校できない生徒達、制限の中で登校を始めた生徒達のために学校は何ができるかを教職員一人ひとりが発想し、変化する状況に即応して、生徒の安全・安心な学習環境を整えることができました。私も教職員と共にトイレ等の消毒作業をする中で、生徒の表情を確かめる日々が続きました。

こんな中、コロナ禍でも「もっと生徒が活躍できる場面を設定できないか」という気運が生徒・教職員の中から動き出します。伝統の文化祭「都筑祭」を「できるか、できないか」ではなく「どうすれば実施できるのか」。生徒と教職員が制限の中で内容を検証、工夫、変化させ実施可能にするための問いを議論し、折り合いを付け納得解を導き出す共同作業が実を結び、コロナ禍でこそ実現した感動的な都筑祭となりました。災い転じて福となす、逆境にあっても個々の発想と集団の力で、不可能を可能にする過程を見て、私は心が震え、進化した「新たな旭の力」を実感しました。

私はこんな旭高校を誇りに思います。旭高校はこの後、再編・統合を控えて次なるステージに向かいます。「新たな旭の力」を結集して次代に向かう旭高校と生徒達の未来に大きな期待をしています。「進め！旭。」

お祝いのことば

49期生 長野 雅樹



旭高校は今年で50周年を迎えました。50年という長い歴史の中、このような節目の年に生徒として在校し、生徒会長として言葉を残すことができとても光栄に思います。

我が校の軌跡を振り返る中で改めて旭高校の様々な魅力に気づくことができました。1973年に設立されて以来、旭高校は部活動等の活動を通してスポーツが盛んな学校として知られてきました。今でも体育大会や水泳大会など様々な行事を通してスポーツと多く触れる機会があり県立高校では珍しく素晴らしい伝統であると思います。

しかし2019年より流行した新型コロナウイルスの影響によりそれらの活動が著しく制限されました。次々と中止になっていく行事や部活動の大会。私たちの青く輝く青春が続げまにに取り上げられていきました。そのようななか昨年度は生徒会や委員会を中心に働きかけ、文化祭での招待制での来客の入場を可能にしました。そのほかにも各イベントの運営など、開校当初から生徒が主体となり行動をし、旭高校を支えてきました。これらの行いは誇るべきものでありますが、同時に私たち生徒を守り指導して下さった先生方、お力添えいただいた地域の皆様への感謝の気持ちを決して忘れてはなりません。私たち旭校生は多くの人たちの支えにより学校生活を送ることができました。

そんな歴史ある旭高校ですが4年後には県立横浜旭陵高校と合併してしまいます。母校がなくなってしまうことは残念に思いますが、私たちが築き上げてきたものはなくなることはありません。形として残るものは限られてしまいますが私たちの3年間の思い出、先輩方が積み重ねてきた50年間での様々なでき事が旭高校に関わって下さった方々の胸の中に残り続けることを願います。